

国民・患者の立場から 医療者の卒後・生涯教育への 期待と提案

第43回日本医学教育学会大会 2011年7月22日

東京SP研究会 代表

佐伯晴子

東京都福祉保健局 医療情報に関する理解促進委員会委員
元社会保障審議会医療部会委員

1

日本医学教育学会大会 COI開示

佐伯晴子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

医療は公共財である

- 税、保険料、医療費自己負担料
- 社会保障の柱としての医療

しかし、現実には

医師偏在、不足による(地域)医療崩壊・・・
地域格差、医療機関格差、情報格差・・・

→公共財(人材も)としてとらえ直す必要

医療機関と医療者に求めるもの

- 医療人材の適正な配置
- 医療機関の連携
 - その地域・自治体の安心
- 向き合う姿勢と対話によるわかりやすさと信頼感
 - その患者・住民の安心

公共財としての意識をどう育てるか

- 地域社会のニーズを知る
- 地域社会の中ではたらく喜びを感じる
- 地域社会で人として信頼され感謝される誇りをもつ
- 地域社会の一員として生きる
- 医療の充実と発展を考える

地域住民と共に学習する 1

○地域の(福祉)医療計画と、医療連携の実情を調べ、改善策を考える。

→所属する医療機関の位置づけ、医療者個人の役割の明確化

副産物

住民は地域全体と個別の医療機関の課題を知り、住民の立場で協力できる方策を考える。

地域住民と共に学習する 2

○疾患と治療と医療費の実情を学習し、自治体が維持可能な医療について考える。

→疾患と治療について住民にわかりやすく説明する(コミュニケーション力向上)

→限られた医療財源で何を優先すべきか問題意識をもつ

副産物

住民は適切な医療の受け方を考える

(過剰医療の抑制、医療費適正化の実現へ)

地域住民と共に学習する 3

- 医療安全と予防医療、災害医療について学習し、住民(患者)との協働で医療の質と安全を実現する方策を考える。

→協働(パートナー)関係であることを認識
副産物

保健医療を核に共同体(コミュニティー)としての意識と連携を強める

地域住民と共に研究する

公衆衛生分野の社会調査

臨床研究

薬や治療法の治験

→ 地域住民を倫理委員に加えた審査を行う（透明性と説明責任）

地域住民の正しい理解と協力を得て実施

副産物

地域力向上　イノベーションの可能性

地域として医学の発展に寄与